



サクラ咲くプラン

市民に信頼され、職員が誇れる
地域で最も存在感のある病院をめざして



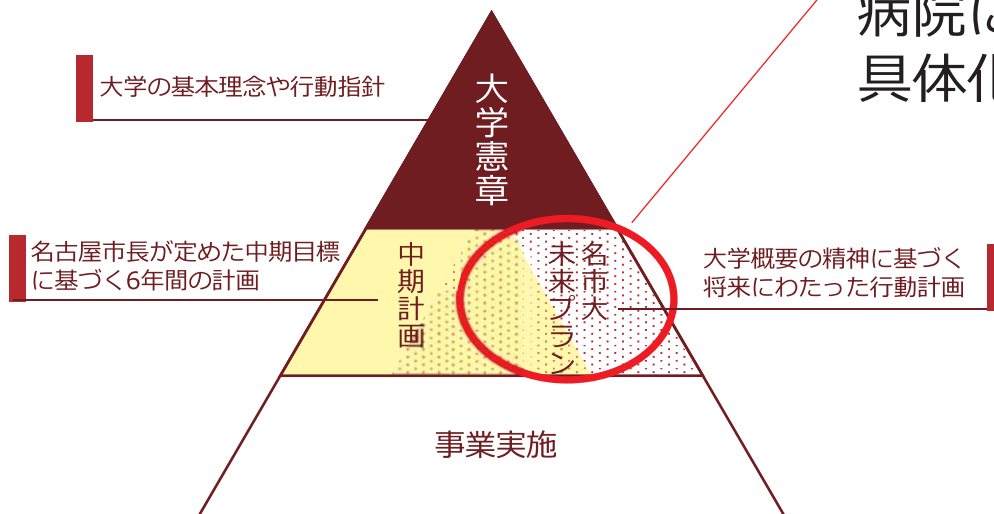
NCU-Hospital 2014.11

サクラ咲くプランとは

「大学憲章と名市大未来プランの関係イメージ」

サクラ咲くプラン

病院における計画を
具体化！！





サクラ咲くプランがめざすもの

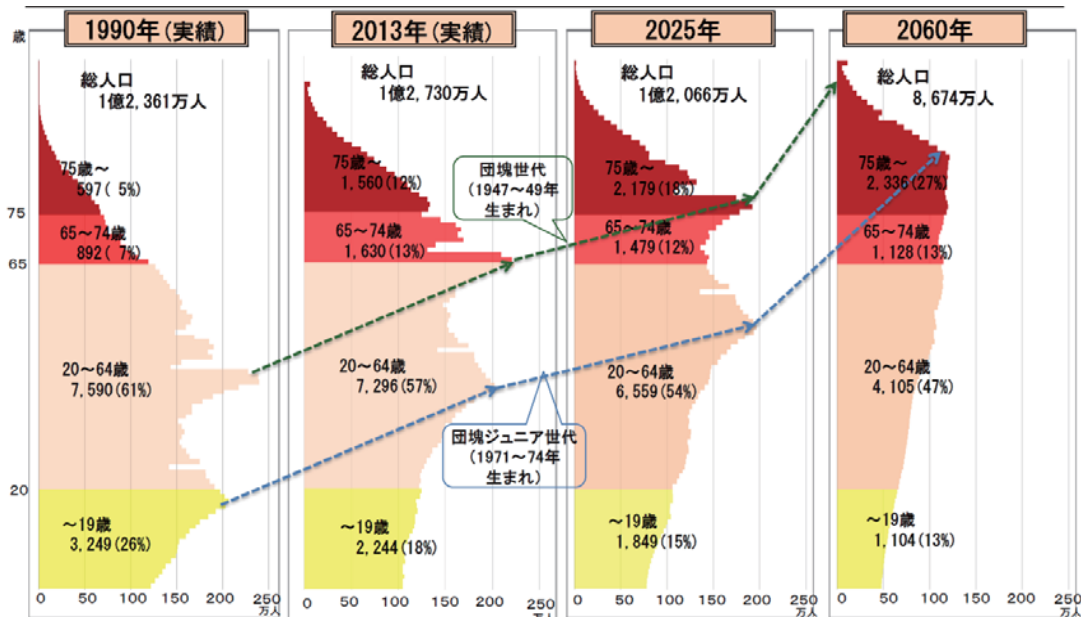
高度急性期病院としての 医療提供体制の整備

- 今年から：できるところから順次改善、意識の改革
- 4年後には：成長経営へ向けた病院の変革を実現
- 10年後には：地域でトップレベルのブランド病院を確立

職員の皆さんには、
これから始まる病院改革に是非ご理解とご協力をお願いします

今後の人口動態

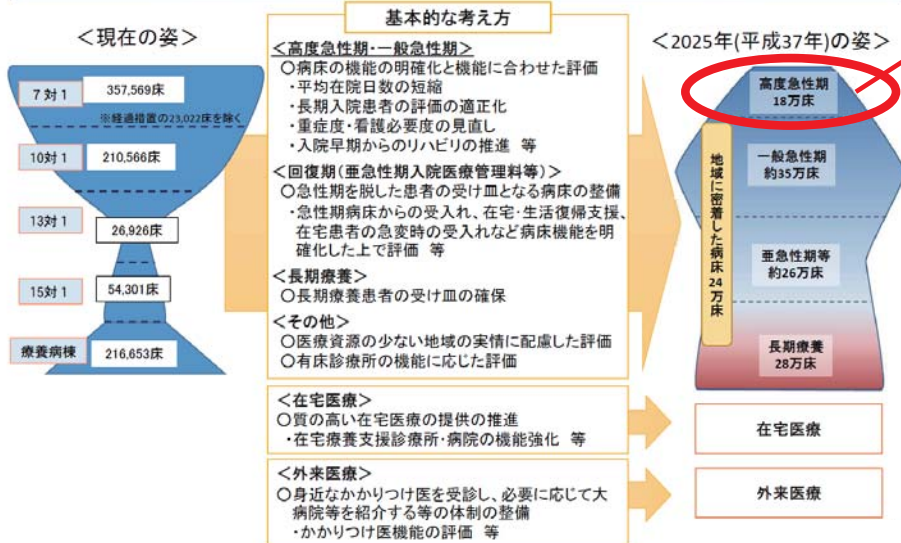
- 団塊の世代が全て75歳となる2025年には、75歳以上が全人口の18%となる。
- 2060年には、人口は8,674万人まで減少するが、一方で65歳以上は全人口の約40%となる。



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)

病床機能の分化と特定機能病院の要件

「次期診療報酬改定における社会保障・税一体改革関連の基本的な考え方」(概要)
(平成25年9月6日 社会保障審議会 医療保険部会・医療部会)



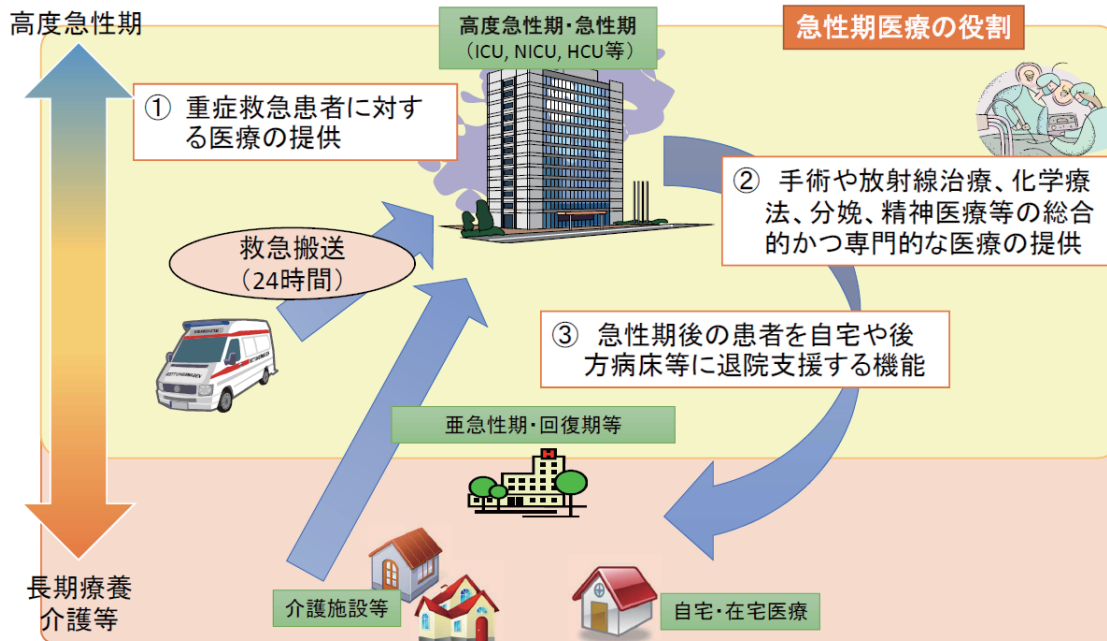
名古屋医療圏でも
淘汰!?

標榜科の見直しや専門医の配置、紹介率・逆紹介率、英語論文数、研修統括者の配置などが新たに要件化され、今後は、特定機能病院の更新制度の導入や、主導的な臨床研究や医師主導治験の数値目標について要件化される見通しである。

《機能区分》

高度急性期機能
急性期機能
回復期機能
慢性期機能

急性期医療を担う医療機関の役割（イメージ）

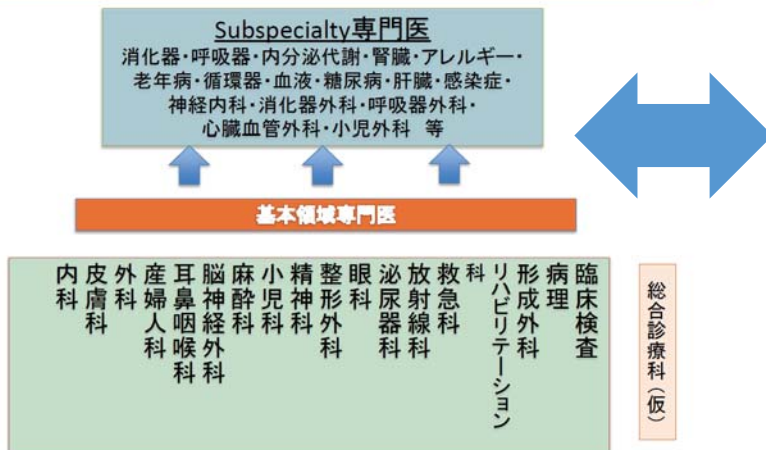


急性期医療の役割として、24時間の救急受入体制、総合的かつ専門的な医療の提供、急性期後の患者の後方病床等への退院支援などが重要であると考えられる。

新たな専門医制度と教育体制

新たな専門医制度の基本設計
専門医制度の2段階制化と標準化

新たな専門医制度の基本設計



制度の標準化に伴う

- 診療・教育制度の整備
- 後期研修制度の充実

SWOT

【強み】

- 医療機器・システム等の高度診療施設
- 6学部7研究科を有する総合大学としての多様性
- 第三者認証評価に裏づけされた質の高い医療
H25病院機能評価認定（機能種別版3rdG Ver.1.0）
- 患者アクセスが良好



【機会】

- 高齢化による医療需要の増加
- 名古屋市医療施設との連携による包括的医療の提供
- 社会保障・税一体改革による各種補助金
- 成長戦略における各種補助金

【弱み】

- 施設投資の遅れ
- 人員配置の硬直性
- 組織体制の未充足（人員・組織）

【脅威】

- 県内他大学病院の改築と機能強化
- 近隣病院との競合、シェア争い
- 高度急性期病院のハードルアップ
- 医療費縮減政策

当院の今後の経営戦略

MISSION

名古屋市立大学病院

当病院は
理念として、高度医療を提供
医療人を育

基本方針

大学病院として、高度先進医療を提供します	高度情報化を進め、安全で開かれた医療を提供します
医学教育を充実し、高い倫理観を持ち信頼される医療人を育成します	名古屋都市圏の中核医療機関として、市民の健康と福祉を増進します

笑顔と感動に
あふれる病院を目指します

VISION

高度急性期病院としての
医療提供体制の整備

サクラ咲くプラン

サクラ咲くプラン-コンテンツ

市民の医療ニーズに対応した
医療提供体制の強化



臨床研究の強化による
新しい医療の創出



安定経営のための
経営改革の推進



高度医療提供のための
病院施設等の再整備



地域社会を担う
優れた医療人の育成



東部・西部医療センターとの
連携強化による名古屋市全体の
医療機能の充実



主な施策(特徴)



ESCO: 省エネルギー改修工事等にかかる費用を光熱水費等の削減分で賄う事業
JCI: 国際基準の第三者評価

新たな組織

★ 新たな組織設置

- 形成外科の設置
- リハビリテーション科の設置
- 救急科の設置
- 内視鏡医療センター(仮称)の設置
- 地域医療連携・入退院支援センター(仮称)の設置
- 不育・不妊センター(仮称)の設置
- アイセンター(仮称)の設置
- ロボット手術センター(仮称)の設置

視点

- 新たな専門医制度への対応
- 特定機能病院承認要件への対応
- 入院に特化した医療提供体制の整備
- 対外的イメージ戦略

機構改革検討委員会報告書より

新たな施設整備



新たな施設整備



視点

- 手術室拡張
- ICU拡張・HCU新設
- 内視鏡室の拡張
- 地域医療連携・入退院支援センター(仮称)
- アイセンター新設
- 新棟【さくらタワー(仮称)】建設

- 手術需要への対応
- 特定機能病院承認要件への対応
- 高度急性期医療の提供
- がん患者増加への対応
- 抜本的機能強化

施設整備計画検討委員会報告書より



職員が輝ける病院へ

フレキシブルな人員配置

- 教授（准教授級）、病院助教の制度化
- 事業収益対象職員の配置
- 柔軟な勤務形態の設置
- クラークの配置

メディカルスタッフ充実

- メディカルスタッフ統括部門の設置
- 病棟薬剤師配置加算の取得に向けた人員増加
- 生理機能検査機能の充実に向けた臨床検査技師の人員増加
- リハビリの早期介入に向けた人員増加
- 高度医療の提供のための臨床工学技士の人員増加
- その他、医療提供体制の充実に伴うメディカルスタッフの増加



新たな制度

《医師補職体系》

教授

★新 教授(准教授級)

准教授

講師

助教

★新 病院助教

臨床研究医

シニアレジデント

視点

- 優秀な人材の確保
- 診療体制の充実
- 処遇の改善

教授 (准教授級)

学校教育法上：教授
選考方法：学外公募
※制度化に向けて調整中

病院助教

学校教育法上：助教
選考方法：病院部長会選考
※年俸制を採用
※平成27年度から制度化予定

育む病院へ

医療人の育成

- ★新たな専門医制度へ対応した教育研修システムを整備します
- ★学部と連携した教育研修システムを整備します
- ★卒前・卒後教育の一体化による医療人の育成を検討します
- ★優秀な人材を採用するための人材アドミッションポリシーを策定します
- ★医療技術職や事務職の人材育成制度について、体系化を図ります

新たな研究分野の設置

- ★医療系3学部と他学部との連携により医工学分野、医療経済学分野の設置を検討します
- ★臨床関連分野における新たな寄附講座、連携大学院等の設置を推進します
- ★産学官連携や外部資金の獲得に向けたプロジェクトを設置します
- ★研究担当副院長を設置します

医療人育成センター

研修医・専門医支援

看護師育成支援

コメディカル育成支援

事務職員育成支援



働きがいのある病院へ

ブランド力UP！！

- ★イメージ戦略部門設置
- ★報道機関への積極的アプローチ



- ★国際化標準（JCI取得）



モチベーション向上！！

- ★各種資格手当の充実



Specialist

- ★職員アメニティ
 - ・職員食堂リニューアル
 - ・フィットネス、リラクゼーション



頼れる病院へ

NC 名古屋市立大学病院
Nagoya City University Hospital



- ★複数のDMAT派遣チームを整備します
- ★災害医療に関する設備・備品等を充実を図ります

研究する病院へ

治験件数
増加

医師主導型
臨床試験増加

イノベーション
増加

- ★臨床試験管理センターの体制強化
- ★医師主導型臨床試験のサポートを強化
- ★PMDA等との人材交流による、臨床試験推進のための人材育成
- ★研究助成金の増加



MEDICAL
DESIGN
RESEARCH
CENTER

医療デザイン研究センター

★体制強化

経営基盤の強い病院へ

連携強化

- ★地域医療機関訪問の全体実施
- ★地域連携システムの導入
- ★救急医療に関する連携・機能分化（救急）
- ★病院局との連携会議開催
⇒材料共同契約・人事交流

寄附の増加

- ★事務組織に募金担当を設置します
- ★企業や銀行等に向けた募金活動を行います

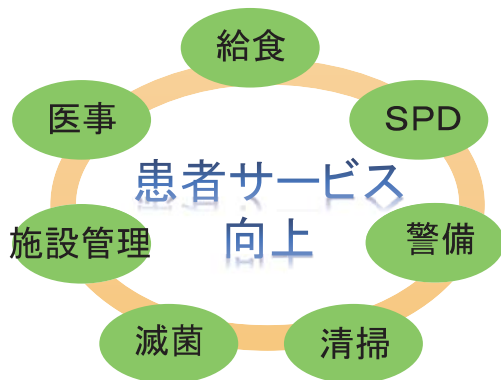
西部医療センター 東部医療センター



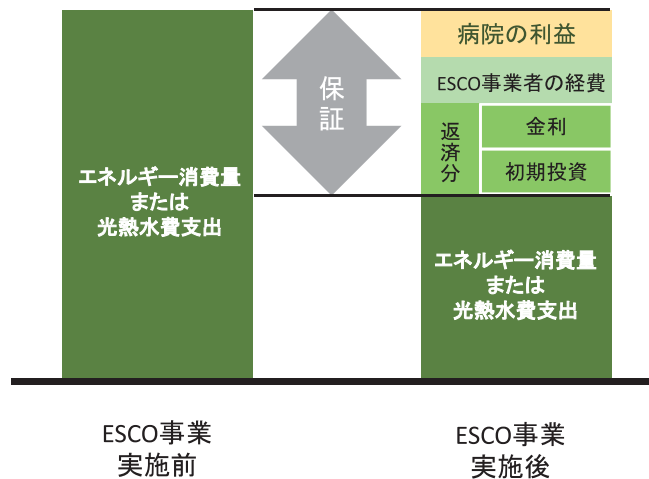
経営基盤の強い病院へ

- ★委託業務の質向上による患者サービス改善
- ★物流のカイゼンによる在庫削減
- ★ESCO事業導入による光熱水費削減
(H30年度開始目標)

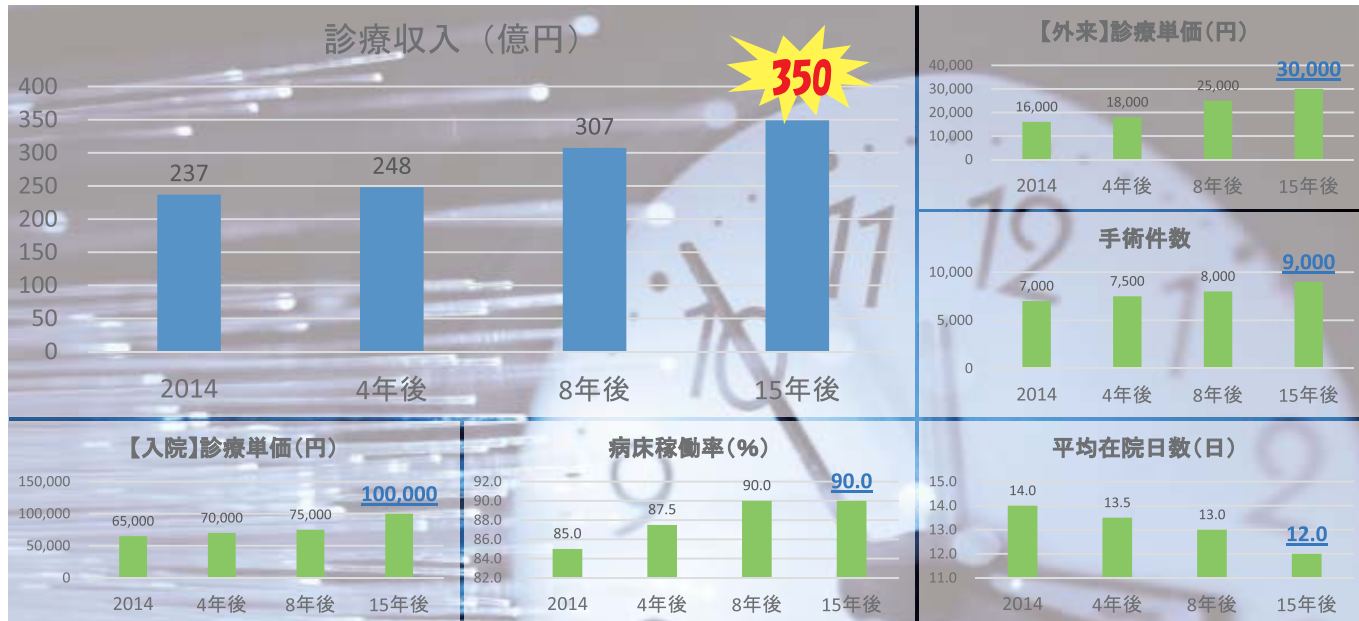
【委託業務とのパートナーシップ】



【ESCO事業概要】



未来のパフォーマンス





まとめ

本計画「サクラ咲くプラン」(以下、本プラン)の名称は職員からの公募により選ばれましたが、まさに新たなスタートを切る我々の気持ちを生き生きと表現してくれたと感じています。

本プランは、ご存知のとおり平成26年度に全学を挙げて策定された“名市大未来プラン”を病院版として特化させたものです。

国の医療費削減や患者ニーズが多様化するなか、当院は弛まない努力により継続的な発展を遂げて参りましたが、名市大未来プランの策定を契機に中長期的な視点で“我々自身の今後のあり方”と改めて向き合い、ヒアリングによる意見交換等を重ね、ここに私たちの未来を描くことができました。

日々激変する医療を取り巻く環境を踏まえて、今後を見据えた施策や経営資源の配分を計画的に示しておりますので、職員の皆さんと共有し当院が今後進むべき道標として参ります。

本プランの実現は決して容易いものではありませんが、職員一人ひとりが同じ方向に向かって全力を発揮すればできないことは決してないと考えています。共に未来の実現を体感して参りましょう。

病院長 城 卓志